

授業日時：令和5年9月21日（木）13:25～14:15
授業者：石井 香帆

1 単元名 現代社会と健康 がんの治療と回復

2 本時の目標

がんを身近な病気としてとらえ、がんとともに生きながらより豊かな生活を送ることができるよう理解を深めることができる。（思考・判断・表現）

3 本時の展開

進	学習内容	○学習活動 ●医師との関わり	◇教師の指導 等
導入 (10分)	1. がんの治療法について理解する。	○がんの治療法の種類について知っていることがあるか、ペアで意見を共有する。 ・手術療法、放射線療法、化学療法などの治療方法があることについてワークシートを活用し理解する。 ●講師から治療法の選択について話を聞く。 ・がんの種類やステージによって治療法が異なることを理解する。 ・医師の説明を十分に受けたうえで、最終的に自分で選択することを理解する。（インフォームドコンセント）	◇始めに、本時の講師を紹介する。 ◇治療の3つの柱について説明する。 ◇病期、検査、治療について十分理解した上で、医師ではなく自分自身が治療法を決めることを押さえる。
展開 (33分)	2. 緩和ケア・治療法の選択について考える。	○仮想事例を用いてがんを当事者としてとらえる。 【仮想事例】 ① 18歳 高校生 部活動の引退試合前 ② 43歳 既婚 子供2人を養っている ③ 70歳 孫の結婚式を1か月後に控えている	◇5人一組のグループを6つ編成する。 ◇各グループに仮想事例①～③を振り分ける。
	がんを身近な病気としてとらえ、がんとの向き合い方を考えよう。		
		・以下の問いについて、グループ活動を通して考える。 問1. がん宣告された後、どんな不安や悩みを抱えているか ・ブレインストーミングを行う ・出た意見を分類する 問2. 治療法を選択するうえで、何を重要視したいか ・問1で出た意見をもとに重要視することを考える ・グループ活動後、代表者が全体で発表する ○緩和ケアについて説明を聞いて理解する。 ・本時のグループ活動そのものが緩和ケアにつながることを理解する。 ●講師から緩和ケアについて話を聞き、さらに理解を深める。 ・実際に関わった患者の事例を聞き、がんが身近な病気であることや緩和ケアの重要性について理解する。	◇①～③のように、状況によって不安に感じることや治療するうえで重要視することが異なることを理解できるようにする。 【評価規準】 思考・判断・表現 がんを身近な病気としてとらえ、がんとともに生きながら豊かな生活を送るために何が大切かまとめている ◇緩和ケアとは、がん宣告を受けた時から始まり、それぞれの分野の専門家が多方面から支援してくれることを理解できるようにする。
まとめ (7分)	3. 本時のまとめ	○本時で学んだことを振り返る。 ・がんに罹患してもその後の人生は続くため、どうがんに向き合っていくか考え、自身の意見をワークシートにまとめる。 ・グループ内で意見を共有する。 ●講師への質疑応答を行う。 ・授業を受けて疑問に感じたことを講師に質問する。	◇がん治療は、今後の生活や生き方も踏まえて選択すること、生活の質（QOL）の維持向上も大切であることを押さえる。